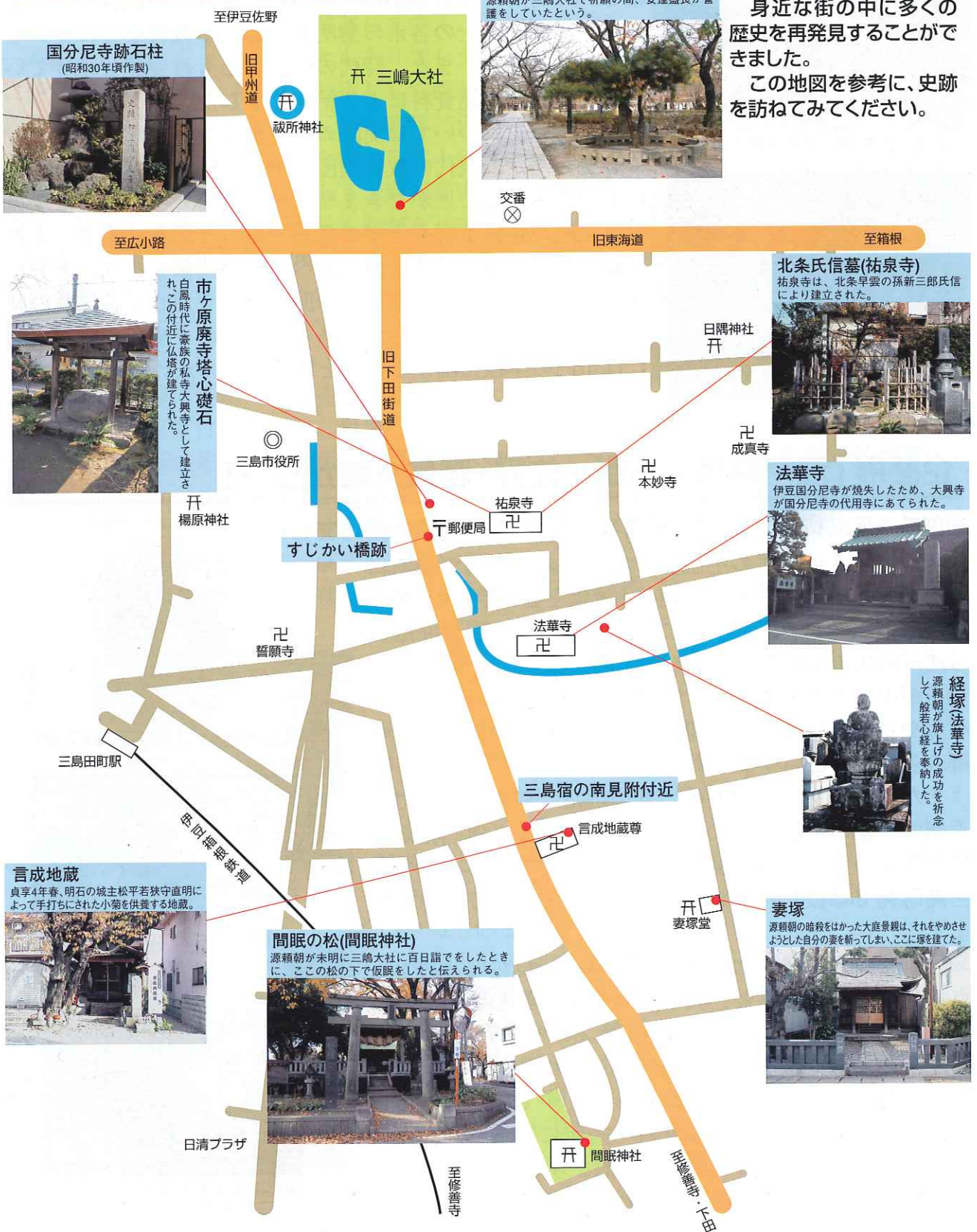


# 郷土資料館だより

28  
Vol.29 No.2  
2006.1.20

## 下田街道を歩こう

9月23日ふるさと講座で、  
旧下田街道を探訪しました。  
身近な街の中に多くの  
歴史を再発見することが  
できました。  
この地図を参考に、史跡  
を訪ねてみてください。



国分尼寺跡石柱  
(昭和30年頃作製)



安達藤九郎盛長警護の跡  
源頼朝が三嶋大社で祈願の間、安達盛長が警護をしていたという。



北条氏信墓(祐泉寺)  
祐泉寺は、北条早雲の孫新三郎氏信により建立された。



法華寺  
伊豆国分尼寺が焼失したため、大興寺が国分尼寺の代用寺にあてられた。



経塚(法華寺)  
源頼朝が旗上げの成功を祈念して、般若心経を奉納した。



妻塚  
源頼朝の暗殺をはかった大庭景親は、それをやめさせようとした自分の妻を斬ってしまい、ここに塚を建てた。



言成地蔵  
貞享4年春、明石の城主松平若狭守直明によって手打ちにされた小菊を供養する地蔵。



間眠の松(間眠神社)  
源頼朝が未明に三嶋大社に百日詣でをしたときに、この松の下で仮眠をしたと伝えられる。

## 富士・沼津・三島 三市博物館共同企画展

### 「子どもの風景～教育のいま・むかし」



▲展示風景 手前は寺子屋の再現



▲統廃合された東中学校と坂中学校の校旗

開催期間 平成17年7月3日(日)～9月4日(日) 入館者数9066人

今回の企画展は、教育・勉強の場であり、子ども社会が凝縮された場所でもある学校を中心に、校外での教育や習い事、三島、沼津、富士の各市の黎明期における教育などについて取り上げました。また、時代の流れとともに変化し続けている教育文化を関連資料により紹介しました。

教育の歴史については実際の資料を見ながらたどることができましたが、現代の教育制度が抱えている課題や将来像等にまで踏み込むことができませんでしたので、それらは今後教育関連の企画を行う上での課題であると思われます。また三島の教育については、展示スペースの関係もあり、十分な展示ができませんでした。今回の企画を通じて各学校の歴史等については調査の必要があると思われるので、将来的には市内の学校に関する企画を開催してみたいと思います。

### 企画展「江戸時代の小説～佐野・勝俣文庫から～」

開催日 平成17年10月2日～平成18年1月15日 入館者数15351人

企画展「江戸時代の小説」では、幕末から明治前期にかけて活躍した三島の俳人、滝の本連水を生んだ伊豆佐野・勝俣家に伝わり、現在当館に寄贈されている勝俣文庫から江戸時代の小説を眺めてみました。

その中でわかった事は、勝俣文庫が俳諧だけでなく、小説や和歌・随筆など、幅広いジャンルにわたる書物を所蔵していたという事です。

また、勝俣文庫を調査中に見つけた「三島」が出てくる個所を集めて展示しました。資料の海から偶然拾い上げた物なので、些細な物ばかりですが、どれも今までの三島研究では扱われてこなかったものであろうと思われます。

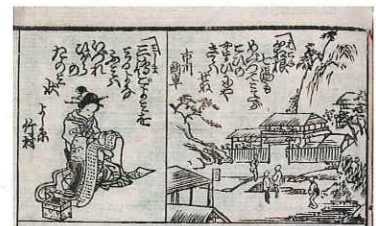
江戸時代の文学を知る事の楽しみは、現在と共通する点を見つける楽しさと、異なる点を知る楽しさという、正反対の二つであると言う事ができるかもしれません。

今、こうして勝俣文庫を通じて、江戸時代から明治に至る三島の文化の一端を垣間見ることができるのも、ひとえに故勝俣巖氏がこれら資料を当館に寄贈され、後世に伝えられることを願ったからに他なりません。

勝俣氏に深く敬意を表します。



▲滝の本連水肖像画(勝俣家所蔵)



▲絵本どといつ総まくり(三島・箱根部分)



▲『道中膝栗毛 後編』十返舎一九  
三島宿での弥次・喜多

## ふるさと講座 下田街道と頼朝

開催日 9月23日(金・秋分の日) 13:00~16:00 会場 本町プラザ(本町タワービル4階)  
講演 「下田街道と頼朝」 講師 鈴木保氏(郷土史研究家) 参加者21人

昨年はNHK大河ドラマ「義経」にちなみ、前年度からのテーマ下田街道での源頼朝の足跡を訪ねる講演会と探訪会を開催しました。

講演では、源頼朝が流刑になった経緯、流刑中の暮らしと三嶋大社での源氏再興の祈願の参詣、また頼朝に関連する史跡について解説していただきました。

### 下田街道探訪

三嶋大社—祐泉寺(国分尼寺礎石・北条氏信墓)—法華寺(源頼朝の経塚)—妻塚—間眠神社—言成地蔵



▲鈴木氏による講演



▲下田街道を歩く受講者



▲昭和20年代の市ヶ原

講演後、実際に下田街道を探訪しました。今回歩く下田街道の市ヶ原、二日町地区には主に三つの視点から歴史を見ることができます。ひとつは奈良時代の寺院の町、ふたつめは源頼朝の足跡、そして鎌倉時代から現在にいたる賑わいの町としての歴史の三つがあげられます。

奈良時代、伊豆の国府、国分寺、国分尼寺が朝廷によって建てられたころ、地域の豪族も私寺を建立しました。それが市ヶ原の大興寺、山興寺、天神原廃寺です。当時の寺院は、現在の大学にあたる仏教の教育機関でもあり、いわば三島には国立、私立の大学を合わせて5校あったことになります。

源頼朝は蛭が小島で流人生活を送っているころ、三嶋大社に信仰心が厚く詣でています。その際とおった下田街道沿いには、さまざまな伝承が残されています。

鎌倉時代になってからは、三嶋大社は頼朝はじめ鎌倉幕府崇敬の神社として、門前にも参拝者が多く、二日町と大社への参道の市ヶ原が成立します。戦国時代にも後北条氏のもとに栄え、現在の祐泉寺は北条氏信によって興されました。

江戸時代から昭和初期までは、門前町、東海道と下田街道・甲州道(佐野街道)の人が行き交う四辻として非常に賑わっていました。

## 縄文土器作り

開催日 7月29日(金)・8月24日(水) 会場 三島市郷土資料館・箱根の里 参加者13人

本年度も「縄文土器作り」を7月29日(金)、8月24日(水)の2回連続の講座で行ないました。縄文土器ができるまでを見てみましょう。(手順上、過去の写真で補っています)

### 土練り



▲粘土・赤土・砂を用意します



▲まぜてよく練ります



▲このくらいから、さらに1時間粘土を練ります

### 成形



▲土器の土台(底)を作ります



▲粘土を縄状にして土台の上に積み重ねます



▲土器の形のできあがり

### 焼成



▲かまどを準備し、薪を燃やして炭火を作ります



▲炭火の上に土器を置き、火を焚きます



▲約1時間焼いて完成

## 郷土教室 紙芝居実演



▲紙芝居の実演

開催日 8月21日(日) 会場 三島市郷土資料館

講師 若林茂子氏 参加者96人

静岡県民の日、企画展「子どもの風景」にちなみ、紙芝居の実演を行ないました。かつてテレビがまだないころ、子どもたちは公園や空き地に来る「紙芝居屋」が待ち遠しいものでした。紙芝居屋は自転車に紙芝居と水飴などの駄菓子を積んで街頭を回り、拍子木を打って子どもを集めます。駄菓子を売り、人数が集まれば紙芝居を始めました。紙芝居屋には、それまでの無声映画のころの活弁士が多かったようです。子供たちからは「紙芝居のおじさん」と呼ばれ親しまれていました。

紙芝居の作品は「黄金バット」「ライオンマン」「鞍馬天狗」ほかにも童話や教訓的なものもありました。

当日は今まで紙芝居を見たことのない子どもたちも、テレビとは違った語りと臨場感で興味津々に見入っていました。



▲紙芝居の展示(若林茂子氏所蔵)

## 郷土資料館運営協議会委員研修視察報告

10月23日(日) 視察先 府中市郷土の森博物館

小春日和の中、郷土資料館運営協議会委員の研修視察で東京都府中市にある郷土の森博物館を訪問しました。

府中市は、大化の改新に伴い武蔵国府が置かれ、江戸時代には甲州街道における府中宿として栄え、明治の初期の一時期葦山県に編入されたこともありました。それは古代に伊豆国府が置かれ、東海道の宿として賑わい、また一時期葦山県であったことなど、三島と非常に似かよった歴史をもっているといえます。また府中市郷土の森博物館は、郷土の森の中に博物館本館があり、楽寿園内にある三島市郷土資料館と立地的にも相通じる点があります。

府中市では市制25周年(1979年)記念事業として、博物館・古民家園・公園を個々にあった計画を一本化し、多摩川の砂利採取跡地約13.7haに知的リクリエーションの場として10年計画で建設されました。

この郷土の森博物館は、この名のとおり郷土の森全体を野外博物館と位置付けており、敷地内には梅園や武蔵野の林、水田を作り、旧家や旧役場、校舎など8棟を移築復元し、保存と展示や行事を通じて地域文化を伝えています。そして博物館本館では、府中市の歴史や民俗、自然に関して教育普及活動をおこなっています。これらの施設管理、事業については管理委託された財団法人府中文化振興財団が自主事業を展開しています。

博物館事業の柱は展示、出版、講座、体験学習、地域協力があげられます。企画展示は、府中市にかかわりのあるテーマ、発掘調査の成果、自然写真展などをおこない、展示テーマに沿って出版物を刊行します。体験学習として、復元古民家での昔話、田植え体験、ふるさと体験館でのわら草履ぞうりや竹かご作りなどの講座を催しています。地域との協力では、園内でのフリーマーケットや夕涼みの会などを行い、また学校との連携を緊密にしています。ほかにも地域の博物館と多摩地域の博物館協議会として共同企画展示やスタンプラリーなどをおこない、連絡と情報交換につとめています。

視察当日も園内ではフリーマーケットが開かれ、復元家屋の街にも多くの市民で賑わっていました。

私たちの資料館と類似点が多く見られる中、多くの見学者に親しまれる事業について参考となる点が多くあり収穫の多い視察となりました。

<連絡先 府中市郷土の森博物館>

東京都府中市南町6-32 TEL: 042-368-7921(代表)

ホームページ <http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>



▲博物館本館での見学研修



▲野外でのフリーマーケット



▲体験館で実演する鍛冶かじ



▲広々とした野外に来館者の賑わい

**寄贈資料紹介**

平成17年4月から9月のあいだに、次の方々からご寄贈のご協力いただきました。  
 ありがとうございます。  
 (敬称略)

- 神戸茂雄 (横浜市)
- 前掛け (昭和前期) 1点  
ほか
- 木下茂徳 (東本町)
- 連隊で使用の蛇口 1点
- 鈴木榮作 (川原ヶ谷)
- 任官状 (昭和16~19) 3点
- 引揚証明書 1点
- 慰労銀杯 1点  
ほか

- 伊達倭子 (中島)
- 棹秤 1点  
ほか
- 津川めぐ美 (千葉市)
- 三四呂人形 (複製) 4点
- 洋裁学院案内 (戦後) 1点  
ほか
- 中島家具店 (富田町)
- タンス職人 1式
- 渡辺典子 (東本町)
- ひな人形道具 4点  
ほか
- 渡辺 浄 (加茂川町)
- 写真帳「三島づくし」 6冊  
(日本全国の「三島」と名のつく地名・神社・施設など)

**郷土資料館運営協議会委員**

平成17年12月から2年間、運営協議会委員の方々より、資料館活動の協力や助言を頂きます。  
 (敬称略)

- 委員長 迫田 信行
- 副委員長 山田 益美
- 諏訪部 敏之
- 山田 修
- 井出 多美子
- 高島 政壽
- 原 知信
- 加藤 雅功
- 矢田部 てるみ
- 渡邊 時子
- 芦川 政晴
- 小田 りつ

**次回企画展のお知らせ**

3月19日～5月14日  
 テーマ「山本玄峰老師」

山本玄峰老師は、昭和のはじめ「白隠禪師の再来」といわれ、沢地・龍澤寺や沼津・松蔭寺の住職を勤められました。  
 遷化(死去)後40年以上を経た今も、政・財界をはじめ、数多くの方々に慕われています。  
 今回は老師の遺墨を中心に展示します。



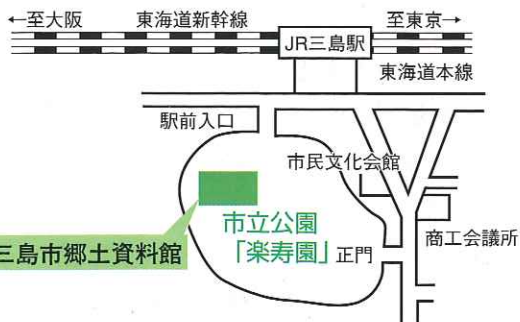
▲シベリア抑留の慰労の賞状と銀杯



▲「みしまづくし」から三島二連水車 (福岡県朝倉郡朝倉町字三島・国指定史跡)

**利用案内**

休館日 毎週月曜日 (祝日の時は翌日)  
 12月27日～1月2日  
 開館時間 午前9時～午後4時30分(11/1～3/31)  
 入場無料 (但し、楽寿園入園の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol.29 No2(第83号)

発行日 平成18年(2006)1月20日  
 (年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
 〒411-0036  
 三島市一番町19-3 楽寿園内  
 TEL 055-971-8228  
 FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
 URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo  
 発行 三島市教育委員会